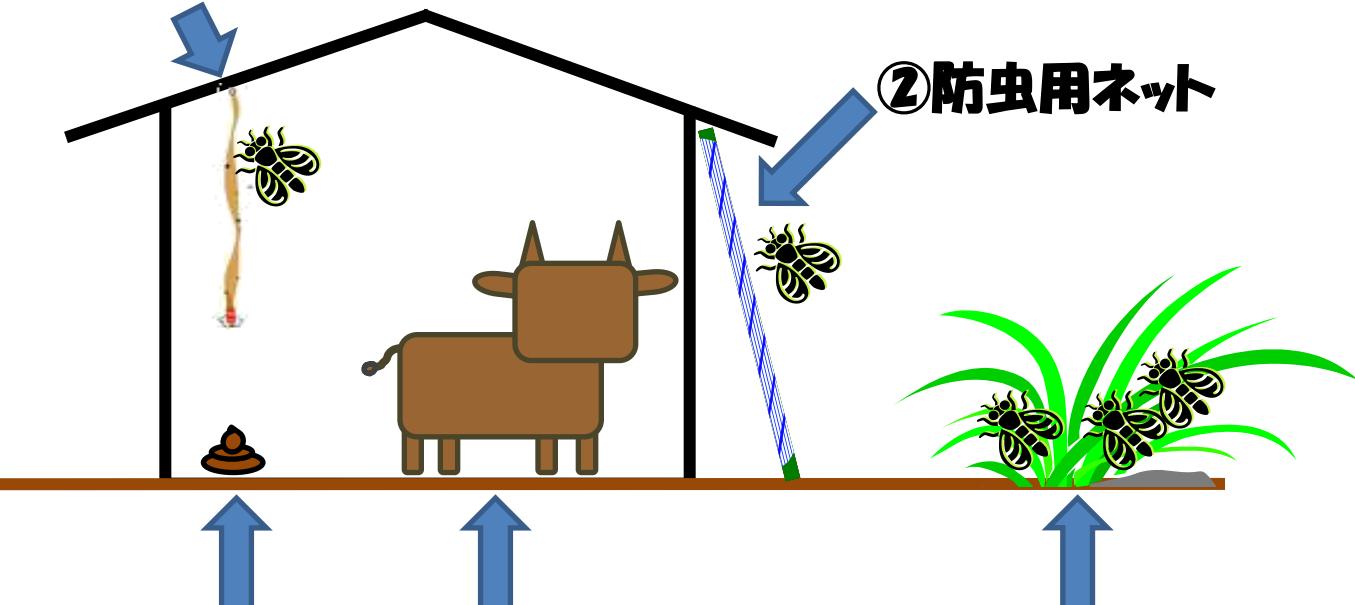


「ハエ対策」も行いましょう！

梅雨・集中豪雨・台風の季節は、床が乾燥しにくいためハエの発生も多くなります。以下のポイントを参考に、ハエ対策を行いましょう！

②ハエ取り



①除糞・乾燥

③畜体を守る

②草刈り

<対策のポイント>

①【発生源対策】 ハエを発生させない！

幼虫(ウジ)は、掃除がしにくく、糞便がたまっている湿った場所で成長します。

※水槽・飼槽の下、柱の周り、ゲートの下、スノコ板の下、堆肥舎の壁の隅、など

○糞便等は速やかに取り除く、消石灰をまく、など床を乾燥させる！

○自由に動きまわれない卵、幼虫、蛹の発育を阻害する殺虫剤を使用する！

※昆虫成長抑制剤(IGR剤)。発生源になり得る場所に散布する。

②【成虫対策】 舎外からの侵入を防ぐ！

家畜の血を吸う「サシバエ」は、吸血後、近くの草むらに移動し休息するので…

○防虫用ネットを設置し、ハエの往来を遮断！「入りにくく、出にくい！」

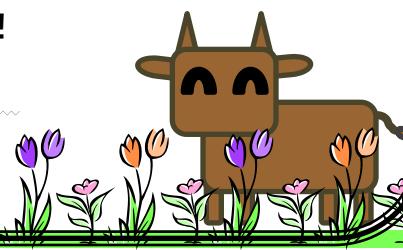
※網目は2ミリほどのもの。ハエの休息場所がある畜舎の側面のみで効果あり。

○畜舎周辺の草を刈り、ハエの休息場所を減らす！

○ハエ取り紙や誘引剤入り殺虫剤を利用し殺虫する！

③【畜体保護】 ハエを畜体に寄せ付けない！

(牛)プアオンタイプやイヤータッグ殺虫剤を利用する。



薬剤を使ったハエ対策



【幼虫対策】



- ・費用対効果が高く、ハエ対策の基本的対策です。ウジの発生する場所に IGR 剤（脱皮抑制剤）を水で希釈して 1 ヶ月毎に散布します。
- ・薬剤の濃度を守り、充分な量を均一に散布します。散布する間隔があき、薬効に切れ目をつくると、充分な効果は得られません。
- ・ IGR 剤：シロマジン剤、ジフルベンズロン剤、ピリプロキシフェン剤等

【成虫対策】

- ・ハエが増えてきたら、 IGR 剤の散布回数を 2 週間間隔に増やし、毒餌法を併せて実施します。
- ・毒餌法は、ハエを引きつける砂糖や粉ミルク、お酒、糖蜜等に有機リン系、カーバメイト系の薬剤を混合して、洗面器等に浅く入れ、成虫を退治します。

（方法）① 薬剤を水で 10 倍に希釈する。

② 0.5% 程度の糖蜜や砂糖水を混合して洗面器等に適量入れる。
必要に応じて粉ミルク、お酒を加えてみる。

③ 農場内の適切な場所に配置する。

有機リン系：トリクロルホン剤、フェニトロチオン剤、プロチオホス剤等
カーバメイト系：プロポクスル剤、カルバリル剤、バリゾン乳剤等

固体の毒餌としては、イミダクトプリド剤が市販されています。



成虫が増えてからでは対策は困難です。
幼虫対策を徹底しましょう！